

わがまちふらっと探検記(4)

今月号は地吉（じよし）をご紹介します。

地吉は、十和地区の西北に位置し、十和総合支所より西へ四百メートル、そこから、県道十和吉野線を北西へ約六キロメートル、世帯数五十三戸、人口百六十五人の集落です。旧日吉村との境になっており、特に、旧西土佐村への道は権谷越えとよばれ、北幡の人たちの土佐、伊予交流の主幹道となっていました。このことから当時の宿屋の面影を残す民家もみられます。



また、一頭の雌鹿を四頭の雄鹿が尋ね求め奪い合う様子を演じた「五鹿踊り」は伊予文化の影響を受けたものといわれています。頭に鹿の面をつけ鼓太鼓をかかえ両手でたたきこの踊りは秋の八幡宮大祭に舞われます。



五鹿踊り 昭和〇十年頃のお写真を酒井夫妻にお借りしました

八幡宮境内には、地吉を代表する高知県天然記念物「夫婦杉」が大小二本仲良く寄り添いあっています。



夫婦杉
高い方は樹高70m。
推定樹齢は750年、
2本の杉が根本で
1本になっています。



酒井夫妻 このふたりが
こんなになっちゃった
前方は 地吉です

その夫婦杉の真正面にお住まいの酒井徳夫さん幸美さんご夫妻が演じる「でこまわし」は、四十一年の歴史があり、名人芸の域に達していて、全国キー局のテレビ番組に出演したこともあります。老人ホームなどを訪問しボランティアで披露しているそうです。また、高知の芸人たちで組織された「土佐のおひねり一座」のメンバーで、今後ますます活躍の場を広げていくようです。

十和では古くより椎茸栽培が盛んで、椎茸生産高日本一に輝いたこともあります。この地域では、二十代から後継者として椎茸栽培をはじめた酒井和志さんがビニールハウスでの栽培に取り組んでいます。ハウスの中には、重いものは四十キロはあろうかというほだ木が所狭しとならべ

られています。ハウス、山をあわせ合計五万本のほだ木で椎茸を作っています。この時期は収穫もさることながら来年菌を入れる原木の切り出しも仕事のひとつで毎年一万本程度のほだ木を更新していくそうです。また、収穫を終えた古木は高品質な広葉樹の有機物で、これを加工し土壌改良材として販売しているところと取り組みをしています。

平成四年には、集落の女性十五人をメンバーとして「五縁の会」が組織されました。会では地元の主要産物である椎茸をつかった佃煮「くびつ茸」などの加工品を積極的に生産し販売を行ってきました。



椎茸ハウス(わかし)と酒井和志さん
おいしそうな椎茸が生えていました

また、「道の駅」の完成に向けた新たな取り組みとして、パンの試作が行われています。できるだけ無添加にこだわり、地元の野菜をふんだんに使った焼きたてパンで道の駅の主力商品を目指してがんばっているそうです。



五縁の会メンバーとやきあがったばかりのパン
おいしかったです

町の人口

(12月1日現在)	
男	9,934
女	11,065
計	20,999
世帯数	8,803
平均年齢	男性・48.0
	女性・52.8
	全体・50.5

四万十町ホームページアドレス
「<http://www.town.shimanto.lg.jp/>」